みやこ 京まなびぃ ニュースレター

News Letter

京都市教育委員会事務局生涯学習部

京都の自然・まち・人々が育んできた日本のこころ

～日々の暮らしに息づく着物文化，その一端を学んでみませんか?～

日本のこころを今に伝える伝統産業。その代表ともいえる着物をはじめとした和装。京友禅，京鹿の子絞り，西陣織などなど，耳馴染みはあるけれどその一つ一つの違いは．．．

着物姿で楽しそうに京都のまちを散策する海外の方も多く見かけるようになりました。着物は日本文化の象徴として広く世界中に知られています。でも，このまちで暮らす私たちにとって身近なはずの着物を，あなたはどのくらい知っていますか?

オリンピック・パラリンピック，大阪万博などを機に，更に多くの人々が日本文化に触れるため京都にも訪れることでしょう。日本のこころを海外に，また次代に伝えられるよう私たち自身の文化を今一度学びなおしてみませんか?

京（KYO）も学んじゃおっ!「織成舘（おりなすかん）」編

今回の京（KYO）も学んじゃおっ！は，京都市上京区にある織成舘。京都の和装産業と言えば京友禅と並んで必ずその名前が浮かぶ，西陣織！その西陣織をわかりやすく展示し，体験もできる織屋建（おりやだて）のミュージアムです。織屋建てとは，機織（はたおり）を営んでいた人の住居のことで，天井まである大きな機織り機を置くための吹き抜けや，調湿と採光を目的とした天窓などが特徴の建物です。周辺のまち並みも風情豊かな石畳。建物の雰囲気と相まって気分があがります。京都ぽっい(^O^)！

建物に一歩足を踏み入れると，普段間近でみることのない立派な能装束に目を奪われます。これは観世流能楽の片山家の収蔵品を復原した物だそうです。

織成舘で今回とてもすごい!!!!と思ったのは見学ツアー（要事前申込）です。織場では織り機が並び，どういった生地がどのように織られるのか実物や写真を見ながら説明して頂けます。糸繰などの準備や紋意匠図の作成などの製紋，手機を使った製織の各工程がくまなく見られます (^O^)。何千もの経糸と緯糸（これで「たていと」「よこいと」と読むのが正しいのだそうです。）から様々な紋様が織られていく様子に感動！（た～ての糸はあなた～♪よ～この糸は私～織り成す布は～♪）現在進行形で織り成されてゆく先染めの糸たち。まさにこれから世に出される西陣織を自分の目で見られます。

一度この艶やかな素敵空間へ足を運ばれてみては?その他にも西陣界隈には，さまざまな和装に関連するギャラリーやお店があります。せっかくの京都，着物姿での散策も素敵だなと思います。

INFO
織成館（公益財団法人 手織技術振興財団）
上京区浄福寺通上立売上ル大黒町693
（市バス「千本上立売」から徒歩6分）
075-431-0020
10:00～16:00（月曜・年末年始は休館）
500円（高校生以下は350円）

着物姿を美しく

着物を美しく，また粋に着こなすには「姿勢と立ち居振る舞い」が肝要です。着慣れない着物や草履を履くと，動きがぎこちなくなりがちですが，少しポイントを押さえれば美しい着物姿になります。

歩くときの歩幅に注意したり，袂に手を添えて物を取ったり，階段を上がるとき裾を少し上げてみたりと洋服より動きに制限がある着物ですが，そんな時こそ気持ちにも時間にも余裕をもって，ゆったりと立ち居振る舞うと，着姿が一段と映えるはずです。一つ一つの動作を丁寧に，着物を大切に思う気持ちが，表情や所作まで美しく見せると思います。

これから暖かくなっていく春の訪れと共に，着物でお気に入りの場所へ出かけてみませんか。いつものまちの風景が少し違って見えてくるのではないでしょうか。

- 姿勢に意識を向けて背筋を伸ばしてみましょう。
- 左右の肩甲骨を引き寄せるように胸を開きます。
- 丹田（おへそ辺り）に力を入れて体幹がぶれないようにすると，凛とした立ち姿に。

文・モデル：柾木良子氏

京都市社会教育委員のコラム

まなびぃの つぼ

前を向くと景色が変わる

京都市社会教育委員　柾木 良子 氏（同志社大学日本語・日本文化教育センター嘱託講師）

柾木良子
プロフィール

京都市生まれ。京都市立銅駝美術工芸高校・京都芸術短大染織科卒業。卒業後は女優としてNHK大河ドラマ,TV,CMに多数出演。雑誌「美しいキモノ」モデルの経験を生かし着物教室を開催。各地で講座やイベントに出演しながら若い世代に着物を伝えるため精力的に活動中。平成29年7月から京都市社会教育委員。

※「社会教育委員」とは?

社会教育法に基づき，生涯学習の諸計画の立案をはじめ，家庭・地域の教育力の向上や，京都の豊かな学習資源の活用方策など生涯学習全般に関し，教育委員会に助言を行います。（現在17名）

京都は着物のまちといわれますが，着物産業も着る人も減少の一途です。私は学生時代に染織を専攻していたことや，女優やモデルという仕事柄，着物を着る機会が多くプライベートでも好んで着ていました。そして多くの人が潜在的に着物に憧れを抱くにも関わらず，着るまでに至らないことに疑問を感じていました。この京都で子どもの頃から，ひらがなやカタカナ，足し算引き算を習うように，学校で着物に親しめるようにしたい。着物を着なくてもいいけれど，良し悪しも知らないまま大人になってしまうのは惜しい。そう思ったことが現在の仕事の始まりでした。

若い世代が着物に慣れ親しむ授業をつくりたい。その一心でまずは浴衣授業を提案し，小学校や高校の家庭科で取り入れてもらうようになりました。女子少年院でも実施するなど，ひと夏で200人ほどを指導する機会に恵まれました。

ただ，最初の数年は浴衣も経費も持ち出しです。高校生100人が浴衣を着られるようになっても，授業の運営経費は全て自前…。それでも，着物の魅力を伝えたいとの思いに突き動かされるようにして続けてきました。

その原動力になったのは子どもたちや学生たちの反響です。「日本人ってすごいな」「浴衣を着たら姿勢がよくなるし，言葉使いまでよくなった気がする」「所作が丁寧になって，物を大事にしようと思える」「大人になったら着物を着たい」「こんな素敵な着物を残さないなんてもったいない」。その前向きさ，好意的な反応にこちらが驚いたほどです。毎年こうした感想が返ってくるので，何事にも代えがたいやりがいを感じ，続けて行かなければという使命感のようなものが生まれてきました。

平成30年度銅駝美術工芸高等学校での授業

着物や浴衣は若い人たちにとって，ただ衣服というだけでなく精神的にも文化的にも興味深いテーマになっていることに気付きました。彼らには新しいファッションとして映っているのです。また留学生にも，着物は日本文化の象徴の一つとして注目されていると感じます。

「着物を学校教育に」との思いは徐々に受け入れられ，大学の授業にも取り入れられるようになり，高校の授業も今年で15年目を迎えました。教えることで私自身も多くのことを学びました。

直感を大切に，情熱だけは人一倍。何度も壁にぶつかって，自信を失うこともありますが，全ての経験に無駄はないと実感しています。前向きな気持ちは大きな力になると信じて!

委員からのメッセージ

七転び八起き

柾木良子

「京（みやこ）まなびぃニュースレター」の内容についてのお問合せ先
京都市教育委員会事務局生涯学習部（生涯学習推進担当）
京都市中京区富小路通六角下がる骨屋之町549（元生祥小学校）
TEL:075-251-0410　FAX:075-213-4650　メールアドレス:shogaigaku@edu.city.kyoto.jp

京まなびぃニュースレター第21号　平成31年3月発行